基礎から学ぶ　楽しい疫学　第4版

中村好一（著）

聖路加国際病院 QI センター感染管理室マネジャー
坂本史衣

疫学がわかることの楽しさを実感したい全ての方へ

著者紹介に高校の卒業アルバムの写真が使われている．新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で上京ができなかったために代用した，とある．本書の面白さはそこだけではない．表紙のデザインが電車の切符の鋏痕（きょうこん）である．鋏（はさみ）をパチパチならす駅員に毎日切符を切ってもらっていた評者にとっては非常に懐かしいが，本書の楽しさはそこだけではない．

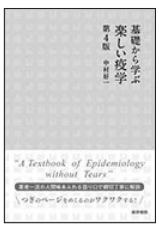
職業柄，再び話を COVID-19 に戻すが，今年はこの感染症にまつわるさまざまな数字が，表やグラフになり，もっともらしい解説を伴って，毎日毎日，新聞，テレビ，SNS などで飽きるほど流れた．大量の論文もかつてない速度で発表された．それらのデータの多くは，真偽のほどはともかく，COVID-19 のリスクの大きさや変化を測定したものである．

COVID-19 に限らず，感染対策にはリスクの測定がつきものである．なぜならリスクを測らない限り，感染対策が功を奏しているのかいないのかがわからないからである．リスクは過少評価しても，過剰評価してもいけない．なるべく正確に測り，その結果を，限界を含めて適正に評価する必要がある．そのためには世界共通のルールが必要である．そのルールが疫学である．ルールを知らずにデータを生み出せば，意図せず人を騙すことにつながりかねず，またルールを知らずにデータを読めば，騙される可能性が生じる．世間に COVID-19 に関する玉石混淆の情報があふれかえり，多くの人がそれに踊らされた 2020 年ほど，疫学の重要性が示された年はないと言ってよいかもしれない．

「疫学は難しそうだ」という初学者の方．ご心配なく．本書は非常にわかりやすい．初版から今回の第 4 版の発行に至る 20 年間，おそらく読みやすさやわかりやすさを追求しながら著者は改訂を重ねられたのだと思う．本書を読まれる方には，ぜひ本文だけでなく（本文でも十分に勉強にはなるのだが），欄外の注釈にも目を通すことをお勧めしたい．これを読むことで「原則＝本文に関する筆者の考えや経験」を知ることができ，原則をより深く理解することができる．まずは原則を知りたいという方は，1 回目は本文だけを読み，2 回目には注釈も読む，という読み方もお勧めである．

本書の内容には過不足がない．初学者のためのオールインワンである．読み終わってから，興味のある疾患のリスクを評価した論文を 1 本読んでみることをお勧めしたい．これまでぼんやりとしか理解していなかった研究デザイン，指標の意味や解釈の仕方がクリアになったと感じるだろう．論文に対するツッコミどころも見えるはずである．

疫学が難しいと思うのは難しい本を読むからである．疫学がわかることの楽しさ，そしてその有難さを実感したい方には，ぜひ本書を手に取っていただければと思う．



●A5/頁 242/2020 年
定価：本体 3,200 円＋税
［ISBN978-4-260-04227-7］
医学書院 刊

©IGAKU-SHOIN Ltd. 2021
2026/09/17 09:39:40